20210822 レムナント教会 1 部

## 問題のすり替え（創世記 4:1-8）

今現在、地球の人口は 78 億以上になっているそうです。それほど多くの人が今、地球に生きています。その中で本当に自分の問題、そして、人生の問題を正しく理解している人が、どれぐらいいると思いますか。問題が何かを正しく知ることは、勝利の人生の入り口に当たるものなので、もし問題を間違えてしまうと、例えば東京行きなのに、名古屋方面の高速に乗るようなことになります。なので、どれほど頑張っても一生、答えのないまま、さまよい続ける人生を歩むしかありません。問題が何かを間違えてしまうと、結局、そこには心の傷だけが残り、恨みつらみがあり、そして、人間的な野望の渦に巻き込まれるようになります。なので、今日聖書を通して自分の問題、そして、人生の問題を正しく分かっている人がどれぐらいなのか。いるのかどうかということを、人のお話ではなくて、また、自分の思いではなくて、神のことば、聖書を通して確認して行きたいと思います。聖書はこのように断言しています。

第一、人は根本的に自分自ら人生の問題を正しく知ることはできませんと書いてあります。

神様は人を神のかたちに造られました。世界万物を造られて、その中で唯一人間だけが神のかたち、つまり人間だけが肉体を持っていながらも霊的な存在として造られたということです。なので、当然ながら人間だけが犬や猫は全く知ることができない霊的な世界を知り、霊的事実が何かを分かる存在なのです。なので、犬は神様に礼拝することができなくても、人間だけが神様に礼拝を捧げ、神を喜び、神様と交わることができる、そういう存在です。神様は目に見えないけれども、肉体を持っている人間なのに霊的な存在なので、目に見えない神様を喜んで神様を知ることができ、神様を礼拝することができる、そういう存在でした。しかし、悲しいことに人間が悪魔にだまされて、神様に罪を犯して、神様を離れることになります。それを聖書は、その霊が、たましいが死んだという風に言っています。エペソ 2：1 には、自分の罪と罪過の中にあって死んでいた者である。これこそが魂のある霊的存在だった人間が、その霊が死んでしまったという表現なのです。だから、ノアの時代に創世記 6：3 には、人間が肉にすぎない者になったと神様は嘆いていらっしゃいました。たましいが死んだというのが、唯一、肉を持ってたましいのあるそういう存在なのに、肉にすぎない者になったということなのです。たましいは死んで肉だけで肉の感覚によってのみ生きる、そういう存在になってしまいました。肉にすぎない者になったという一番の現れが、創世記 3：7、罪を犯した後、裸であることを恥ずかしく思うようになったと言われているところが、肉にすぎない存在になったという最初の現れなのです。今までは裸であることが何の問題もありませんでした。霊的な存在だったので。しかし、その霊が死んだことによって裸であることが恥ずかしくなり、たましいが生きているときに神を喜んで神を求めて神様と近づくそういう存在だったのが、創世記 3：10、神を避けて神から逃げて身を隠すようになりました。これが肉にすぎないことの現れなのです。そのときから不安にとらわれて恐怖が襲いかかって、今まで経験したことのない状況になって、すべてが一変に変わってしまったわけです。すべてが問題になりました。そこに神様が訪ねて来られて、「アダム、どこにいるのか」と聞かれました。これはアダムの所在地が分かっていないからではありません。「今お前は何をしたのか。なぜこういうことになってしまったのか」と問いかけることです。それに対して、肉にすぎない者になってしまった、つまり、霊の感覚が麻痺してしまうようになったアダムは、「私はいま裸なのでこういう風に身を隠しています」と、自分が裸であるという肉体的な条件が問題だという風に返事をします。そうすると神様は、「お前が裸であることを私が言ってるわけじゃない。善悪の木の実を取って食べてはいけないと言ったのに、それを食べたのか」と聞かれたときに、「神様が私に与えられたこの女の人が私を誘ったので、それでとって食べてしまいました」。何が問題なのか、なぜそうしたのかと問いかけたときに、肉にすぎないので、目に見えるこの女のせいで、これが問題だというように思っているわけです。それでその女人エバに神様が問いかけると、「あの蛇が誘ったから」と目に見える蛇のせいにしていました。これがたましいが死んで、肉にすぎない者になっている人間の精一杯のレベルなのです。これしか見えません。これしか知ることができません。たましいが死んでしまったので。結局、これを通して私たちが教えられるのは、神を離れて罪を犯してしまった人間、たましいが死んでしまった人間は肉にすぎない存在になり、その結果、人間、自分自ら何が本当の問題なのかを正しく理解することは不可能なんだということが明確になります。これが聖書

が私達に教えてることです。

なので、改めて申し上げましょう。人は根本的に自分自ら何が本当の問題なのかを正しく理解することは不可能なのです。これを大前提にしないとクリスチャンの信仰はスタートしません。それから、本当の勝利の人生の入り口を間違えてしまうようになります。私の問題を初め、人生の問題を正しく知っている方は神様だけなのです。神様の他には何が本当の問題なのか、問題の真相がどうなっているのか、それを知っているものはいません。神様だけなのです。つまり、問題をご存知の神様が私たちに何が本当の問題なのかを教えてくださらない限り、私たちは自分の問題を人生の問題を正しく知ることは根っこから不可能です。だから神様は、最初からこれからもずっと人間に向かって地球に向かって神のことばを聞きなさい。わたしは語るから神の言葉を聞きなさいと、それほど叫んでいらっしゃるわけですね。なぜ神のことばを聞くべきなのか。なぜ聖書が大切なのか。なぜ礼拝がメッセージを聞くのが大切なのかと言いますと、それ以外に真実を知る根拠、その材料はどこにもありません。人間が研究して、また自分で悩んで深く考えるから何かが分かるわけではありません。根本的にそれが不可能な存在です。そこを認めないといけません。神のみことばを正しく聞かない限りは、なぜ自分の人生がこんなに辛いのか、なぜ自分の家庭が、この世界が、社会がこういう風にぐるぐる回っているのかということを正しく知ることはできません。だから、学校で教えられることは、また、哲学者や科学者が言っていることは参考にするだけであって、それを本気にしてはいけないというその理由がここにあるわけですね。教会に通っている、神の子どもと言われているクリスチャンの私たちがその姿勢を持っていないと、どうやって勝利できるんでしょうか。神様が教えてくださらないと私たちが知ることができません。その神様がアダムに教えられました。ある意味、霊的にはアホになっていた、そのアダムに親切に神様が教えられました。お前の本当の問題は、今、状況がいきなり一変に変わって、何もかもすべてが不幸になって、すべてが暗くなってしまったでしょう。その本当の理由は、黙示録 12：9、古い蛇、この蛇じゃなくて蛇の中に入っている目に見えない霊的な存在、古い蛇、悪魔、サタンによることなんだよと教えられました。なぜそうなってしまったのかと言いますと、ローマ 3：23、『すべての人は罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず』。神のすべてを失うようになってしまった理由が、罪のためなんだよ。それが本当の問題なんだよ。その結果、なぜこんなにもぐちゃぐちゃになってしまったのか、なぜ心の平安がないのか、なぜ不安に駆られて、なぜ恐怖を抱えて生きるようになってしまったのか、ヘブル 2：14、[これを食べると必ず死ぬと言ったでしょ。]死の力に囚われているからなんだよ。いのちの根源である神様を離れた結果、何もかもすべてが駄目になり、すべてが問題になり、すべてが不幸になるしかない死の力に囚われていることがお前の問題なんだよと親切に丁寧に教えられました。だから、これから問題の解決、人生の答えは女の子孫が生まれて、蛇の頭を踏み砕いて、女の子孫がお前の代わりにかかとに噛み付かれること、犠牲のいけにえになること以外に答えはありません。女の子孫、イエス・キリストだけが答えなんだよという風に教えられました。これが福音というものなんです。これを天使を通して伝えられるからエバンジェリズムと言うわけです。預言者によって語られる前に神の遣いを通して、それが伝えられるようになります。神の使いは神様のこの教え、神様だけがご存じの人間の本当の問題に対しての真相を伝えるものが神の御使いなんです。

改めて申し上げましょう。聖書を通して神様が私たちに教えている内容は、人は罪によって根本的に自分自らどんなに悩んで、どんなに研究して勉強しても、自分の人生の問題を正しく知ることはできません。神様が教えてくださること以外に方法はありません。神様はそれを親切に人間に教えられる方なのです。

しかし、目に見えない悪魔、サタンは、一回目に成功したのでこの神様が教えられる福音の教え、これが聞けないようにして、人々を死ぬ時まで永遠にその問題の中に閉じ込めようとしています。

この神様の教えさえ聞かなければ、これさえ信じなければ、東京に行くべきなのに、名古屋の方に行くようになるでしょう。ずっと肉にすぎない、そういう人間のレベルの中でこれが問題だ、あれが問題だと思って、そこにずっと閉じ込められるようになるんじゃないでしょうか。これが悪魔、サタンの策略です。その悪魔の策略が一番最初見られるところが、今日読んでいただきました聖書の箇所です。アダムはこの事件の後、カイン、そしてアベルという息子が生まれます。神様が授けられました。皆さんがもしアダムの立場であれば、何にに集中して力を注ぐんでしょうか。「お前はこれから人に迷惑かけちす2

ゃいけないよ。道徳的にしっかりしないといけないよ。ちゃんと勉強しないと」を教える以前に、目を覚ましたら寝る時まで時間が許されれば、神様の教え、自分自ら体験したこの福音を徹底的に教えるでしょう。何が問題なのか。女の子孫キリストの他に希望がないんだよ。これこそがいのちなんだよと散々耳にタコができるほど教えたはずなんですね。しかし、同じく聞いたにも関わらず、アベルはそれをアーメンと聞き入れて、カインはお父さんがおっしゃるから、はい、はいとはしていたかもしれませんけれども、全然聞き入れようとせずにそれを無視していました。その証拠が何かと言いますと、いけにえを捧げるときに、礼拝を捧げるときに、アダムから言われた福音を聞き入れたのであれば、アベルのように羊の血をもって捧げるはずなのです。しかし、カインは自分なりに精一杯備えたかもしれませんけれども、羊の血とは全く関係ない、ただ、穀物を捧げるだけでした。これをヘブルの手紙でもこの捧げものに問題があったと指摘しています。なぜこのようになってしまったのでしょうか。アベルはアダムが伝えた、つまり、神様の教え、神のみことばを聞き入れて、カインはそれをさっぱりと無視していたという現れなんですね。その結果、アベルの礼拝は神様が受け入れて、カインの捧げものは神の答えがありませんでした。この結果を見て、カインはものすごく怒りに燃えます。カインがこの結果を見て怒りに燃えていたということは、裏返しますとカインは今、何が本当の問題なのか、さっぱり分かっていないという裏返しでしょう。違いますか。自分の問題が何か分かっていれば、この結果に対して怒りを露わにしたりすることはないでしょう。そのカインに神様がまた憐みを持って再度を訪ねてこられて、丁寧にもう一回教えられます。なぜそんなに怒っているのか。あなたが正しく行っているのであれば、お前の問題は正しく行っていないことなんだと。正しく行うというのは、おまえはお父さんのアダムからわたしのことばを聞いたでしょ。キリスト・イエスのほかには希望がない。それを無視したんじゃないのか、それが正しく行っていないということです。その結果、あなたにある生まれながら持ってきたその罪、のろいはそのままなんだよ。あなたの罪がそのまま解決できないまま戸口に待ち伏せしているよ。これが問題なんだよ。お前が誠意をもって努力したからといって、その罪が消されるわけではない。お前が成功したからといって、頑張るから泣いたからといって、怒ったからといって、お前にある罪とのろいと地獄の問題が消されるわけではないよ。それを解決できないよ。あなたに必要なのは、その根本的な罪と呪いの問題が解決されることではないのか。そこが問題なんだよと丁寧に教えられまして、方法ももう一回教えられます。だから、あなたはその罪を収めなさいよ。つまり、お父さんから聞いた神のことば、福音を受け入れて、イエス・キリスト、女の子孫を信じなさいよと。それが答えで、それが問題の解決なんだよ。今お前に必要なのは女の子孫イエス・キリスト、神の福音、契約なんだよという風に丁寧に教えられました。そこでカインがそうだったのかと神のことばを聞き入れたのであれば幸いなのに、聞く耳を持たないでいました。なぜなら悪魔、サタンのしわざなのです。カインは全くそれが聞えません。なので肉にすぎない自分のレベルのまま精一杯考えるのが「なぜアベルだけに」。片方だけに愛を注ぐ神様は不公平ではないのか。だから、これはアベル、あいつがいるからなんだと思ったのです。神のことばを聞かないと、肉にすぎない自分のレベルで考えるしかありません。だから、アベルがいるから問題なんだ。アベルのせいなんだと思って、それが問題だと思うと、その問題を処理しないといけないでしょう。アベルを処理しないといけません。だからアベルを野に誘ってアベルを消してしまいました。アベルを殺して人類最初の人殺しになりました。これが単に怒りによって殺したことでしょうか。ヨハネ８：44、悪魔、サタンは偽りの父であり、最初から人殺しであり、この人殺しはカイン一人でやったわけではありません。カインが、悪魔、サタンにとらわれているから福音を聞く耳を持たずに自分のレベルで何が問題なのかを考えた結果、生まれたものなのです。これが悪魔のしわざなのです。神がおっしゃる通りに問題を受け入れないことがどれほど恐ろしいことなのかを、私たちは看過してはいけません。問題が何かを間違えてしまうと。みんな間違いだとは夢にも思っていないでしょうけれども、今日の言葉で申し上げると、肉に過ぎない、たましいが死んでしまって、ある意味、何が何だかさっぱり分からない、そういうレベルの自分が問題を考えると、問題を 100%間違えるようになります。厄介なのは、それが真っ赤な嘘ではなくて、事実なのですが肉に過ぎないんです。事実だからみんなそれに囚われる。そうすると、結局、その問題に縛られて、問題に執着するようになり、問題の奴隷として生きるようになります。どんな問題であろうが、自分で考えた時に、大きいか、小さいか関係なく、その大きいか、小さいかは肉にすぎない。自分のレベルで考えて評価しただけであって、神様がご覧になったときにはそんなものじゃありません。自分は小さい時に親に虐待を受けた。自分の中ではもうこれ以上はないだろうと思うでしょうけども、神様がご覧になったときには、他の問題と同じなのです。根本的には。ただ何が本当の問題なのか。神のことばに従って受け入れないと、肉にすぎない自分のレベルで精一杯考えるから、それが大きく、大きくなってその問題の奴隷になり、一生涯、東京にす3

行かずに名古屋に。名古屋が悪いわけではありませんよ。そちらに行くしかありません。これが人間の真実なのです。だから、その人からは何もかもが言い訳なのです。何かのせい、誰かのせいなんです。何かと誰かと比較するところから自由になれないし、不平不満に走り、心には憎しみと恨みつらみ、だから、心の傷がいえることはありません。心の傷がいえない理由は傷が深いからではなくて、自分で自分に騙されているからです。肉にすぎない自分が神になってるからです。自分が思ってることが正解でしょうか。人間は正解にたどり着くことができません。人間は正解を導き出すことができません。しかし、アベルのように何が問題なのかを正し知ることができれば、つまり、神のことばを聞いて、それに耳を傾けて神のことばを聞き入れることによって、何が本当の問題なのかが分かって、霊的な事実に目が開かれたとすれば、その人は問題に囚われることなく一本に絞られます。女の子孫キリスト一本に絞られて、キリストだけが輝いて、その他はすべて塞がれるようになります。何があったのか、どっちが正しかったのか悪かったのか、いろいろ事実あるでしょうけれども、全部が塞がれて、キリストだけが輝くようになります。その結果、今まで肉にすぎないレベルで問題だと思っていた肉的なすべてのところから完璧に解き放たれて自由になります。これこそが自由なんです。ヨハネ 8：32、「真理はあなたがたを自由にします」 というのはこういう意味なのです。残念ながら、せっかく神の恵みによってイエス様を告白して教会で礼拝を捧げているクリスチャンなのに、神様がおっしゃる通りの問題を聞き入れて認めないので、教会そのものも信者も方向が全然違うこととところに行って、キリスト一本にまとめられないので、大きいかどうか関係なく、結局世の流れ、悪魔のしわざに振り回されるようになるしかありません。私たちはそうなってはいけません。そうなるわけにはいきません。世界中でキリストの他には輝いてはいけません。皆さんの思い、心の中でイエス・キリストの他に輝くものがあってはいけません。キリストだけが宝であり、キリストだけが輝くように絞られるようになること、これこそが信仰であり、恵みなのです。これが聖書が教えている真実なのです。それがそういう風にならないで、未だに自分の思いや情緒や気持ちや様々な感情やいろんなところに、何かの問題に引っかかって囚われているのであれば、残念ながら認めましょう。目に見えないけれどもカインが見事に引っかかったように悪魔、サタンのしわざに引っかかってることなのです。問題があるからそうなったのではなくて、神のことばが聞けないからなんです。

なので、今日礼拝を捧げている皆さん、またオンラインで礼拝を捧げている皆さん、時間空間を超越する神の祝福と力が私たちのものなので、同じく豊かな恵みがあることを祈りたいと思うし、今まで神様のみことばなしで分かっていた知識、特にその中でも何が問題なのかに対して知っていたこと、それはすべて間違いだ、これは違うよと認める勇気を出しましょう。それを誰が邪魔するんでしょうか。それを認めようとするときに。それを認めてしまうと、今まで自分を支えてきたものが、はしごが外れるかのような感じに思うのです。今までお母さんのせいにして、それで自分がダメなことをなんとか合理化してきたのに、誰かのせいにして社会のせいにして、また自分の頭が悪いとか、何とかのせいにして、それを支えにしてきたのに、それが間違いだと認める瞬間、支えがなくなる恐怖に駆られるようになるんですね。それを克服しないといけません。そこが悪魔のしわざなのです。勇気を出しましょう。これは悪魔、サタンが問題をいわばすり替えてしまったことなんだよと、悪魔、サタンは問題をすり替える天才なのです。それを認めてこれからは何があっても自分の過去を始め、今現在もこれからも神様が教えられた福音を中心にしてすべてを評価して行きましょう。何が問題なんでしょうか。福音を聞いていないことが問題なのです。アフガニスタンの問題は福音を聞いていないのが問題なのです。周りからこれを聞くとアホじゃないのと思われるかもしれません。仕方がありません。肉にすぎないレベルで言っていることに翻弄されてはいけません。そして、福音を聞いてても福音が何かを知らないことが問題です。あの人なんで、嫌だ、ではなくて、なるほど福音を知らないから、悪魔、サタンにあのように振り回されているんだな。そうすると、人に対して祈る以外にどうして人を批判することができるんでしょう。そして、クリスチャンなのに批判の的ではなくて、福音を味わうことが出来ていないから問題なのです。このように福音を中心にして問題を見るようにしましょう。

そして、ここにいらっしゃる皆さんは、幸いイエスがキリストだと告白しています。キリストを答えにしましょう。キリストが皆さんのすべての人生の解答であり、答えなのです。キリストを答えにして具体的に実際的に祈りのなかで、皆さんが今まで知らず知らず意識的に無意識的に縛られていた肉にすぎないすべてから解放されて解き放たれる体験ができるようにしましょう。それができたときに初めて心の傷、何かに、また誰かに対して恨みつらみ、憎しみ、また誰かのせい、言い訳などが終わるように

なります。それを終わらせましょう。そこからスタートなのです。そこから皆さんの人生が本当に 237 カ国、サミットを生かす尊い主人公だというお話が自分のこととして聞こえてくるようになります。その時までは心の傷に囚われてるのに、それと私とは無縁の話でしょう。非常に残念なのです。囚われているすべてから、それは肉にすぎない自分が評価したものなので間違いだと認めて、キリスト一本に絞られるように、皆さんの心の中で思いの中でキリストだけが輝くようになって、そして縛られていた、引っかかっていたすべてから解き放たれて、それが記憶に残っているか、あるいは現在、現実あるかどうかなどと関係なく、すべてから解き放たれて解放されるそういう祝福を体験して、これからは神様が備えられた契約のカナンに向かって、前に向かって突き進むことができるように。足を引っ張るようなものがないように。弱くても構いません。どんな状況であろうが、それに縛られる理由などはありません。皆さんはキリストの血潮によってきよめられた尊い神の子どもなのです。

（祈り）
恵み深い父なる神様。ありがとうございます。今日も聖書を通して悪魔のしわざが何なのかを教えられました。神様だけが何が問題なのかを教えることができるのに、肉にすぎない自分に閉じ込められて問題の奴隷とさせるこの悪魔のしわざを打ち破って、キリスト一本に絞ることができるように。今までのことを全否定しながら、神のことばを聞き入れて、何が問題なのかを正しく認めることができるようにひとりひとりを祝福してください。それでひとりひとりが本当に囚われている、これから伝道者としての輝く人生足を引っ張るものを切り離すことができるように、まことの自由を体験し、味わうことができるように聖霊様が導いてください。万軍の主イエス・キリストの御名によって、私たちのたましいを、さまよっているたましいをいやしてください。心と思いを、病んでいるところをイエスの御名によっていやしてください。肉体の病気を主イエスの御名によっていやしてください。崩壊している生活をキリスト・イエスの御名によって主がいやしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン